

かしこく 心豊かで たくましい子の育成をめざして

令和6年度

東明小だより

令和6年9月26日
第7号



「一人一人のドラマを感じて」



校長 吉田 尚子

先日、結団式が行われ、運動会に向けての取組がスタートしました。「今年はどんな運動会になるのかなあ。」と考えながら子どもたちの練習や取組を見るのが、毎年の私の楽しみとなっています。と同時に、毎年運動会のシーズンになると、私は我が子の小学校時代の運動会を思い出すのです。

当時、私は可見市内の小学校勤務でした。そのため、娘の運動会とはどうしても日にちが重なり、ついに6年間1度も、運動会を見に行くことは、できませんでした。(中学校・高校は行くことができました。)

また、当日は、昼食を家族と一緒に食べるのが当たり前になっていたのですが、我が家の運動会の昼食は、中学校勤務の主人とおばあちゃんと3人で一緒に食べるのが慣例でした。しかし、最大のピンチは娘の6年生の運動会に起こります。その年から主人も小学校勤務となり、なんと運動会が重なってしまったのです。さらには、頼みの綱であったおばあちゃんも大きな手術を終えたばかりで、長時間野外にいることはできません。さすがの私も仕事だから仕方ないとはいえ、「小学校最後の運動会なのに一人で参加させるのか・・・」そう考えるだけで、娘が不憫でたまりませんでした。

当初、学校で娘は「お弁当を一人で食べる人」となり、担任の先生と一緒に食べることになっていたのですが、急遽近所の方のご厚意で、なんとか一人にはならず昼食を食べることができました。

また、後日担任の先生から、「娘さんのがんばっている様子をぜひ見てあげてください。」というメモと一緒に、娘が友達と楽しそうに運動会に参加している姿が数枚プリントされたものを見せていただきました。親として、一人で参加させてしまった運動会がずっと心に引っかかっていたので、楽しそうな我が子の姿を見て安心すると同時に、担任の先生のお心遣いには、心から感謝したことを今も覚えています。こうして、多くの人々の支えにより、その年の運動会をなんとか無事に終えることができたのです。

我が家でさえも、たった1回の「運動会」にこのようなドラマがありました。きっと東明小児童181人にも、私たち教師の知らないところで181通りのドラマがあるに違いありません。



東明小職員は、そんな子どもたちを全力で支え、「全ての子どもの未来につながる笑顔」を目指し、今年も運動会を行います。

お時間がありましたら、ぜひご参観ください。開催日は10月19日です。

(一人一人の決意を新たにした結団式)